



キャリア教育だより

第1号



発行元：相模原市教育委員会キャリア教育推進チーム / 令和5年5月発行

令和5年度第1回キャリア教育担当者会を開催しました！

令和5年5月10日(水)に「令和5年度第1回キャリア教育担当者会」をオンラインにて開催しました。今年度の方向性を共有したり、各中学校区での取組について協議を行ったりしました。また、清新小学校から、軸になる取組(異学年による縦割り活動)後に、児童に育てたい力が身に付いたかを図るアウトカム評価についての事例発表もありました。第1号では、担当者会後の先生方の感想や、小・中の連携について、藤田先生、原先生のお言葉をご紹介します。日々子どもたちと関わる先生方において、キャリア教育で育む力を育てていくためのヒントになれば幸いです。



◆筑波大学の藤田先生より(令和4年度相模原市キャリア教育推進委員会にて)

「小・中連携については、身に付けさせたい力でつながっていくことが大切です。小学校で、ここまで育てきたということを明確にして、中学校に自信をもってバトンを渡しましょう。」

担当者会にご参加いただいた皆様の感想です。

フェーズ2(R4~R6)「共有・協働」に関わる内容についてピックアップしてご紹介します！

- ・講義の中で、「どんな力が付いたかという、アウトカム評価が大切だ」というお話があった。本校のキャリアパスポートにもぜひ取り入れていきたいと思うので、グループ会議で検討してみたい。
- ・キャリア教育と授業は全部がリンクするのではなく、リンクする場面とそうでない場面があることをしっかりと全体共有する必要があると感じた。
- ・キャリア・パスポートを記入して終わりではなく、成長を実感できた生徒の話を聞いたり、アドバイスをしたりする時間を設けようと考えている。また、定期的に全体計画のページを全職員に見てもらうなど、先生方にキャリア教育の視点に立ってもらえるようにする。
- ・保護者に対しては、懇談会や面談、メール配信などでキャリア教育の意義やキャリア・パスポートの取組について理解や協力を得ること。
- ・フェーズ2の段階に入った中で、今まで取り組んできたキャリア・パスポートや個人面談、生活アンケート等を改めてキャリア教育の視点で取り組むことを学校全体で進めていきたい。そのためには、職員会議等での周知、教職員間の情報共有をこまめに図ることが必要だと感じた。
- ・学年やクラス、各グループなどではめざす児童像にもとづいて目標を決めて取組を進めているので、PDCA サイクルを大切にして進めていきたい。



◆青山学院大学の原先生より(令和4年度相模原市キャリア教育推進委員会にて)

「教育は世代間の襷リレーであり、小中高とスムーズに連携していけると子どもの成長に繋がります。今遅れていたとしても、将来のビジョンを本人が感じていれば、徐々に力が上がっていきます。」

小・中学校の先生方が連携することは、子どもたちの成長につながっていきます。今後とも、小学校から中学校、そして子どもたちの未来への、温かなバトン・襷リレーをお願いいたします。